

トルコ為替週報

2022年8月16日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

<過去1週間の動き>

(8月9日～8月15日)

USD/TRY: 17.8100～17.9700

TRY/JPY: 7.34～7.54 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、対ドルで17.96を中心とした狭い値幅における膠着を支配的とした。リラ下値が明確に限定された一方、断続的なリラ買いの値動きは観察された。とりわけ、10日欧州引けに前後した時間から、翌11日の欧州勢参入に前後した時間のリラ上昇は目についた(注1)ものの、流動性を欠いた時間のリラ買いに関する深読みは不要と思われた。現在までに、対ドルの18.0割れを目前とした水準における膠着が2週間超に及んだ事実には、意外感もあるが、要因不明の断続的なリラ買い(とリラ反落)を含め、トルコ国営銀によるリラ買い(注2)を疑うのが、最も信憑性の高い推測と思われた。リラ上昇に意外感を抱く理由は、引き続き、自由な資本移動(対内外証券投資)が制限された環境下、経常赤字ファイナンスに伴う外貨買い需要が値動きの基調を作るものと見込んでいるから。11日発表されたトルコの6月経常収支は、34.6億リラの赤字と概ね市場予想に沿った内容だったものの、前年同月比+190.8%、年初来累積前年比+142.8%の赤字拡大などといった尺度で、明確に憂慮すべき結果と言えた。11日発表された週次統計はトルコ総外貨準備が、7月29日の611億ドルから677.7億ドルに急増した事実を明らかにした。前日からのリラ上昇(上述)になんらかの影響を及ぼした可能性は考えられなくもなかったが、実際のところははっきりしなかった。12日の北米市場引け後に、一部大手格付会社が、トルコ国債(自国通貨/外貨建長期)格付を引き下げたことは、逆にリラ売り要因と読むこともできたが、上述の通り、トルコの対内外証券投資は概ね枯渇した状態が続いており、とりわけ投機的等級から投機的等級への格下げが週明け以降のリラの値動きに影響した様子は読み取れなかった。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/10	7:00	失業率	6月	10.3%		10.6%r
8/11	7:00	経常収支(USD)	6月	-3.46bn	-3.40bn	-6.57bnr
8/12	7:00	鉱工業生産(前年比)	6月	+8.5%	+6.7%	+9.0%r
	7:00	小売売上高(前年比)	6月	+5.5%		+21.2%r
	7:00	期待インフレ率(12ヵ月)	8月	+41.99%		+40.23%
8/15	8:00	財政収支(TRY)	7月	-64.0bn		-31.1bn

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(8月16日～8月22日)

USD/TRY: 17.850～18.150

TRY/JPY: 7.30～7.55

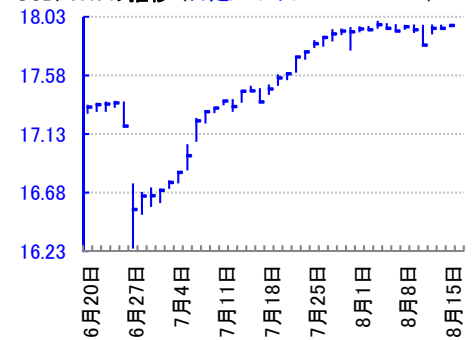
向こう1週間のトルコ・リラ相場は、仮に値幅が出るとしたらリラ安方向を警戒。ただし、過去2週間の膠着が長期定着する可能性も現実的に考えられる。上述、トルコ総外貨準備の急増は、先日(7月29日)、建設代金(総額200億ドル)の一部が送金されたとされたロシア製トルコ原発に対する(ロシアからトルコへの)融資(150億ドル)の追加送金が疑われた。外貨で融資を受けた資金の一部を、地場建設会社への支払い(労働者賃金など)に充てるためにリラ転されることには違和感もないが、(融資を預かった)地場銀との為替フォーワード取引で純外貨準備に吸い上げられた資金を、仮に為替介入目的でリラ買いに充てたのだとしたら、単純に、「人のふんどしで相撲を取っている」ようなものと言えよう(注3)。リラ安方向の値幅が出たことを警戒するのは、こうした自転車操業が長期的に維持不能と考えるから。他国からの借金(中銀同士のスワップ協定などを含む)に頼らずに、構造的なリラ安基調を変えるためには、経常収支動向の明確な変化(赤字削減、黒字基調への転換)、もしくは、経常赤字を補って余りある対内証券/直接投資の流入が不可欠なはずだが、現時点で、いずれも期待することは難しいものと考えられる。トルコ中銀が18日の金融政策委員会で利上げに踏み切り、対内証券投資の流れを少しでも変える(資金流入を促す)可能性も、現時点で考えられないだろう。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/18	11:00	1週間物レボ金利		14.00%		14.00%
8/22	8:00	外国人観光客(前年比)	7月			+145.0%

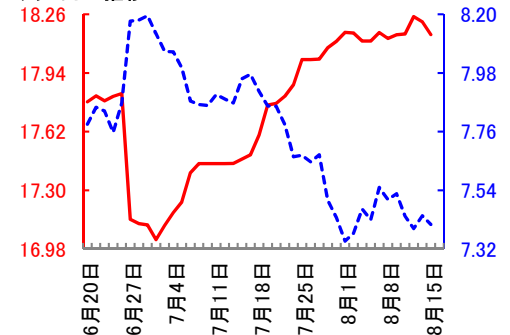
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



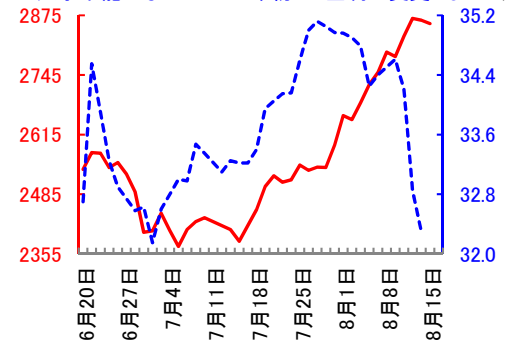
バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン17:00)



株式市場の推移 (ISE 100種指数)

長期金利の推移 (5年物OIS金利: 5年物金利スワップ金利が入手不能になったため5年物OIS金利に変更しました)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q1	+7.3%
失業率	6月	10.3%
消費者物価(前年比)	7月	+79.60%
鉱工業生産(前年比)	6月	+8.5%
小売売上高(前年比)	6月	+5.5%
貿易収支(USD)	6月	-8.17bn
経常収支(USD)	6月	-3.46bn

(注1) 17.8000(時間外)まで上昇

(注2) 実質的なトルコ中銀によるリラ買いが替介入

(注3) 建設資金の大半は、本来、国外からの資材(外貨建)購入資金に充てられるべきと思われるから

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。